

滿洲遠眺

何れも一頁

十月二十六日の戦況の結果は、日本軍の侵入を止めた。...

●内鮮人融和の懇談會開(金州) 遼寧省の金州に於ける内鮮人融和の懇談會が、二十三日、...

●有望なる滿洲の水田經營(下) 想像も及ばぬ地積 遼寧省の金州に於ける水田經營の有望なる地積、...

●鮮支人の救済方法 鮮支人の救済方法、...

●酒造組合新設 金州の酒造業者 金州の酒造業者、...

●農信 農信、...

●怪火と其後 怪火と其後、...

●本浦麗水航路(未通) 本浦麗水航路、...

●銀行再出(未通) 銀行再出、...

商況

東京現貨中値

下関米中値

京城現貨中値

足利米中値

分發米中値

仲買店

仲買店

仲買店

●白米底堅 白米底堅、...

●米穀不活 米穀不活、...

●米穀不活 米穀不活、...

京城正米市場

足利米中値

分發米中値

仲買店

●米穀不活 米穀不活、...

1

か 脂 質 含 こ り 銀 し の 中 に き 著 効 度 お こ な さ れ 面 の 肌 荒

新 自 由 万 代 主 三 郎 氏 三 十 年 の 研 究 結 果 新 製 成 品 新 式 電 燈 代 表 者 へ 対 し 新 式 電 燈

かぜに
一びく

ままピリン

ねつに
一びく

ままピリン

行 効 験 忽 も 現 は る

但 十 銭 廿 銭 廿 五 銭 五 十 銭 一 圓

本 店 高 橋 盛 大 堂 藥 局

大 阪 東 京

※ 至 る 房 間 藥 店 に 販 賣

淋病患者の福音

[illegible]

額資
チノ

[illegible][illegible][illegible]

朝鮮總督府
大正五年五月
朝鮮役社長 安藤爲司
專務取締役 熱田謹治
取締役 北村熊吉
取締役 役吉田秀次郎
取締役 役安藤公司
取締役 役松江次郎
監査役 酒井宮吉
監査役 松江次郎
知味停車
大連
釀酎
聞香下馬

●金を儲けた人は金儲をさせてあげます●

有証券・信託
金庫及信託
電話北一〇六七番 青島一八五六九番

明治商會

加盟金一口百圓半口五拾圓中込

大阪市北區堂島町通堂丁四八

京城永樂町二丁目（商品陳列館裏門通）

入院隨意

酒井婦人病院

電話 一六〇八番

酒井一郎

金物藥油石炭炭灰各種水垢セメント
土管 水金具 各種 各種 水院 無煙炭

株式 株式
中村組 中村組
平壤支店 平壤支店
電話長五〇一 電話長四二一

水道機器 水道機器
製作修理 製作修理
株式 株式
中村組 中村組
鐵工所 鐵工所
電話長六〇三 電話長六〇三

火 鐵
ヤマト 鐵
株式 株式
中村組 中村組
鐵工所 鐵工所
電話長六〇三 電話長六〇三

和洋金物商 京成本町三丁目
佐藤半次郎商店
電話口東京區三番町二丁

金儲は何んでもないもんだ
第二回成績發表衣里園益々成功
三月十二日締切各組に對し賣買百八十圓に於て
金壹千〇六拾七圓獲得し配當せり
二月二十五日締切各組に對し賣買百八圓に於て
金八百八拾壹圓獲得し配當せり
三月五號締切各組に對し賣買百六圓に於て
金六百四拾壹圓獲得し配當せり
三月十三日締切各組に對し賣買百五圓に於て
金貳百六拾九圓獲得し配當せり
四月二十日締切各組に對し賣買百圓に於て
金壹百七拾壹圓獲得し配當せり
本會は全現業員恭氏と共に力の如き好成績を得し事を此に慶賀する次第に候なり

出来た山 出来た山
一の大発見!
暖氣でなく、朝露でもない只高底さへすれば結構と思ふ遠な秘法
今元金百圓で月百圓儲かるの百圓が一年四拾萬圓以上になる安
全確信を得る新秘法公開

米全勝會
詳細は説明書を見
てお牌ハバ力中
達御開書取惠
第拾貳期(出)

圓外懸行騙し文意の如く實際に請けるもの為何れも誑誘して

藤造高 五千萬石
 品質醇良
 天下唯一
 合名會社 齊藤酒造

新荷蘭
 平坂
 三丁目
 電話 〇八番振替東京一七三三

商會
 分
 藤田國太郎商店
 京師三丁目
 電話 〇八番振替東京一七三三

實業
 生命保險相互會社
 京師三丁目

[illegible]



最上醬油

朝鮮仁川

高杉杉醬油釀造場



▲維基元 五月六日 元山發

▲出清丸 五月十四日 元山發

▲元山維基元 五月十四日 元山發

▲鏡丸 五月十四日 元山發

▲大原仁川 五月十四日 元山發

▲鏡丸 五月十四日 元山發

▲開門仁川 五月十四日 元山發

▲咸鏡丸 五月十四日 元山發

▲沙羅行 五月十四日 元山發

▲立神丸 五月十四日 元山發

▲大原仁川 五月十四日 元山發

▲平現丸 五月十四日 元山發

▲維基元 五月十四日 元山發

▲出清丸 五月十四日 元山發

▲元山維基元 五月十四日 元山發

▲鏡丸 五月十四日 元山發

▲大原仁川 五月十四日 元山發

▲鏡丸 五月十四日 元山發

▲開門仁川 五月十四日 元山發

▲咸鏡丸 五月十四日 元山發

▲元山維基元 五月十四日 元山發

▲出清丸 五月十四日 元山發

▲元山維基元 五月十四日 元山發

▲鏡丸 五月十四日 元山發

▲大原仁川 五月十四日 元山發

▲鏡丸 五月十四日 元山發

▲開門仁川 五月十四日 元山發

▲咸鏡丸 五月十四日 元山發

日朝鮮郵船出帆

大原仁川 五月十四日 元山發

出清丸 五月十四日 元山發

元山維基元 五月十四日 元山發

鏡丸 五月十四日 元山發

大原仁川 五月十四日 元山發

鏡丸 五月十四日 元山發

開門仁川 五月十四日 元山發

咸鏡丸 五月十四日 元山發

▲元山維基元 五月十四日 元山發

▲出清丸 五月十四日 元山發

▲元山維基元 五月十四日 元山發

▲鏡丸 五月十四日 元山發

▲大原仁川 五月十四日 元山發

▲鏡丸 五月十四日 元山發

▲開門仁川 五月十四日 元山發

▲咸鏡丸 五月十四日 元山發

▲沙羅行 五月十四日 元山發

▲立神丸 五月十四日 元山發

▲大原仁川 五月十四日 元山發

▲平現丸 五月十四日 元山發

▲維基元 五月十四日 元山發

▲出清丸 五月十四日 元山發

▲元山維基元 五月十四日 元山發

▲鏡丸 五月十四日 元山發

▲大原仁川 五月十四日 元山發

▲鏡丸 五月十四日 元山發

▲開門仁川 五月十四日 元山發

▲咸鏡丸 五月十四日 元山發

▲元山維基元 五月十四日 元山發

▲出清丸 五月十四日 元山發

▲元山維基元 五月十四日 元山發

▲鏡丸 五月十四日 元山發

▲大原仁川 五月十四日 元山發

▲鏡丸 五月十四日 元山發

▲開門仁川 五月十四日 元山發

▲咸鏡丸 五月十四日 元山發

アカシア

SOAP

石鹼

大連
萬玉洋行

日本郵船出帆

大連
天津
青島
上海
香港
汕頭
廈門
寧波
溫州
福州
廣州
汕頭
廈門
寧波
溫州
福州
廣州

大連 天津 青島 上海 香港 汕頭 廈門 寧波 溫州 福州 廣州

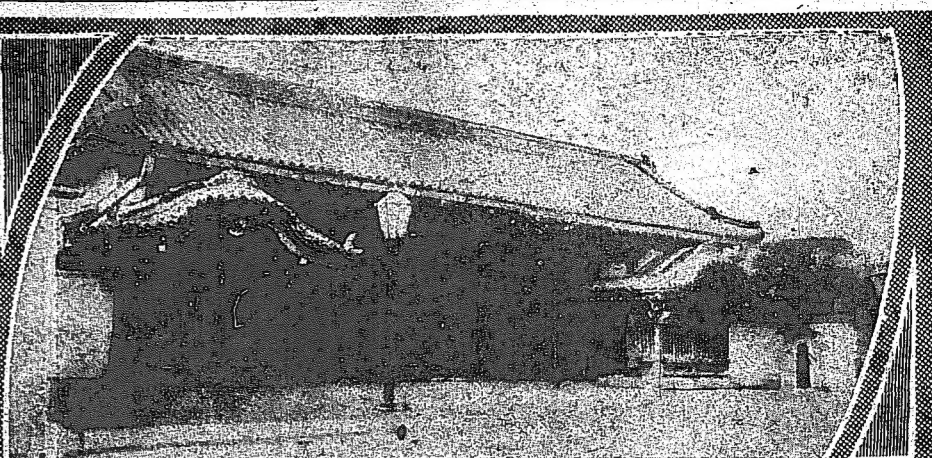
日本郵船出帆

大連 天津 青島 上海 香港 汕頭 廈門 寧波 溫州 福州 廣州

大連 天津 青島 上海 香港 汕頭 廈門 寧波 溫州 福州 廣州

日本郵船出帆

大連 天津 青島 上海 香港 汕頭 廈門 寧波 溫州 福州 廣州



愈々今日、雲深き九重の大奥にて執行はせらる

聖上陛下親しく

賢所大前の御儀

九重の雲井の奥に於かせられては
既報の如く七日を以て皇太子殿下

朝見の御儀

御冠を授け給ふ九條義典
大皇皇后兩陛下には御正装御禮
の御服もいさ華やかに正殿に出
あらせられまう式部左官の
外陣の御座に御當末あらせらる

幸じて皇子に候す候て、陛下には、旨に對し、御膳言上あり茲に於し、
内陣の御座に並御あらせられて、親父君陛下には、勅語を母共陛下に

ししく醫所の太前に御詔拜あらせら
し再び波多野宮内大臣・式部長
官を別行に又侍從をして劍璽を奉
給し、正朔の音樂を奏せしむ。時、樂
師御詔拜し、其旨を賜へば、皇太子殿下には、藩
旨を受けさせられ御液の御
著かせらるるは、より御喜ばは立
ち、御詔拜し、其旨を賜へば、皇太子殿下には、藩

身みにに東宮とうきゆう如ごとくく仲な方かたをを結むすぶぶ
 ながこちよわでんか

良子女王殿下
御徒歩で學習院へ

給ふ事もなく自強息むなき御精

の御事さも漏れ候はるまゝに記し奉りて千秋萬歳の經意を表し奉らん

殿下には本年

に越前守なる一室町の新聞殿後園野史其他の御教育御出題のつに專ら御親に精勵あらせられつあり御賀を備へさせらる大和撫子の美言を備へさせらる

皇靈殿神殿に謁するの儀

所、大前川の御後、に紐て奥殿殿御
に、認するの御儀、行はせらるる前
に、清神神樂の裡に御座る間、か
れ御座る御座物の供するに及び
奉り、御座詞を奏し、
御座内、の
御座、に紐て奥殿殿御
に、認するの御儀、行はせらるる前
に、清神神樂の裡に御座る間、か
れ御座る御座物の供するに及び
奉り、御座詞を奏し、
御座内、の

侍從に奉ぜしめ給ひ入江侍從
こ御道筋

御座に著御あらせられ侍
 は、帝切の御綬を奉じて、外陣候
 にて太子殿下御参遊遊し、拜
 禮して、参入あらせられ内
 御座に著御あらせられ侍
 下り、三田松殿町より二番地右へ同
 通り三田四丁目より八番地右へへ同
 通り三田二丁目より五番地右へへ同
 町通赤羽橋金町芝山内にて銀

長(馬車) 東宮大夫(馬車) 皇太子

に際して御車馬を御幸に閉じました
 神樂殿の御儀は順次に入退
 是れにて御幸を終り、皇太子殿下
 は御仲禮に入らせられ御休養の
 午後一時より朝見の御儀を行は
 せられたる。

朝見の御儀

皇太后内降には御正装御禮装
御服もいふ華やかに正殿に出御
せられまふ川式殿の宮の前
入る形跡

に對し、御勢を上げ、茲に於して、
君陛下には、勅語を母君陛下には、
の風采の如き、**奇賞**其地、
驚る、細く短餘、其他の玩器を、俵川

旨を賜へば皇太子殿下には達する
はこれを受けさせられ御旅の御座
る者からなるはより御緊要は立ら
ず御座り共々

ては五日二十餘名本

には御倅に召させらるる事もあ

主殿下
御容姿
亦神々しく御容姿
で學習院へ
共其は侍女を伴なはれ御徒歩
まよ御通達ありせらる御願ひな
御性にて各もあはれ御成續
て久し侍學生に仰がれ給うた

大日調二氏の

て、野矢は「吾々の新組織に
關する點々、御教示を蒙るべし」といふので、
大和撫子の美言を備へさせらる

山本女史に就かへ給ひて御研究
草まされ給ひ特にピアノの御技はな

ピアノは伊東中將令嬢に父孝曲
指習を受させられ

十日より四日間

年式御遊行ありせらるゝに就
官職にては来る十日十二日上
十四日の四日間、に宣り儀々
に於て御祝宴の御催しあり
には各皇族殿下及び親任侍遇

近衛師團始め御關係者一

て同日間きもに其宮殿下に
宮臨あらせらるゝ御豫定なり
(東京支局)

いひ
京城神社
奉祝祭

より臨時奉祀祭を奉仕する由

其の式次第は、早日神殿、其他の
を行ひ、定刻谷村齋主は各齋員
等を随へ各参列者と共に前座
に参集、修祓を受けたる後、殿
定の座に著き、次いで谷村齋主
和琴、管絃の曲、神楽の裡に御
奉り、各齋員並樂師、禊の裡に

衣きひ拳銃けんじゆうを用もちふ

強盜其他の惡漢
面にのみ全力を傾倒しつゝ

見非士ミヘシ豐トヨ豆マメ

者に於ては二名を檢

就詞を令笑し終つて齋主以下
列位順次主串を感り再び奉

間に候を撤^{はら}御屏を閉ぢ奉^も
 式を了^は順序なるが當日は一
 を休み参^{まゐ}りして皇家の隆盛を
 奉^も祈^{いの}り奉^もるべきなりと

花形
堀江 龍溪

奉祝御成年式

日本書夜開演

新派

花次
川血達磨
話集(ハナ)

費金
黃金館

奉祝御成年式

京城本町第一目

賀島商
梶原末太郎

電話三六七番

開業廣告

營業目錄

內外國物產
輸入賣易
委託販賣及
商品担保
貸付業等

樂器・蓄音器部

京城本町第一目(電氣會社前)
山崎樂器部代理店
販賣元 山口樂器店
振替口座五二五番

奉祝御成年式

京城南大門通一丁目

中山洋紙店

電話一三四一番

資本金參拾萬圓

大正八年五月五日開業

海東物產株式會社

京城府蓮來町

電話三〇四三番

